

利用者の声(総括表)

【平成29年度 良かった点】

- ・「KURUMIRU」で自分で製作した商品が販売されていて楽しかった。区内企業で休みに販売会を行っていただき、短時間に沢山売れて良かった。(事業番号1「作業所等経営ネットワーク事業の充実」)
- ・新しいおもちゃが増えて嬉しい。(事業番号2「おもちゃサロンの充実」)
- ・自宅の防災グッズの見直しをしないといけないと思いました。災害について漠然とした不安から実感を持つことができた。今日、習ったことを友達にも教えてあげようと思った。(事業番号7「災害ボランティアの活動体制の整備」)
- ・実践者の活動報告は非常に勉強になった。演習講座を学ぶことにより、具体的イメージがつかめた。(事業番号9「成年後見制度の利用支援」)
- ・実践研修において、本人とのコミュニケーションの時間を増やしたいが、利用料との兼ね合いで悩むことがある。(事業番号10「市民後見人の育成・支援」)
- ・ボランティアに参加することで社会参加している実感があり、人の役に立てることで、やりがいを感じている。(事業番号13「生活保護受給者自立支援プログラム」)
- ・就職活動の面接の際に同行してくれて非常に心強かった。就職について色々なアドバイスをいただいたので、就職活動をする際の視野が広がった。(事業番号14「生活困窮者自立支援事業」)
- ・分科会のテーマ、話し合うポイントを朗読劇形式で紹介したことが、分かりやすく良かった。実践者の生の声が聞けてとても参考になった。自分たちの活動に生かしたい。(事業番号15「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催」)
- ・サロンのちらしを配ることで、安否確認にもなっている。(事業番号23「ふれあいサロン実施地区の拡大」)

【平成29年度 改善点】

- ・内容が専門的で難しかった。ワーク形式の講座やグループディスカッションはもっと時間を増やした方がよい。(事業番号9「成年後見制度の利用支援」)
- ・市民後見人の経験をまとめたマニュアルや事例集を作ってほしい。(事業番号10「市民後見人の育成・支援」)
- ・例年、若い世代の参加が少ないという反省が出ている。ボランティア実践者向けのものにするか、新たな活動者の発掘にするか、その回ごとのテーマを絞ることも考えてほしい。(事業番号15「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催」)

【平成28年度利用者の声から改善点として挙げられた内容に対する対応】

①《事業番号2「おもちゃサロンの充実」》

〔H28改善点〕みどりおもちゃサロンの回数をもっと増やして欲しい。

⇒〔H29対応〕みどりコミュニティーセンターでの回数を増やすことはセンターの本来業務との関係で難しいので、地域福祉プラットフォームにキッズスペースを設置し、おもちゃを常備することにした。

②《事業番号9「成年後見制度の利用支援」》

〔H28改善点〕年に数回、研修生が一同に会する機会を設けていただきたい。

⇒〔H29対応〕職員が主導するのではなく、受講生主導による自主会合が始まった。

〔H28改善点〕実践研修がやや不安。

⇒〔H29対応〕研修講義内で実践研修の説明を強化した。結果、不安を抱きつつも、受講生全員が実践研修に取り組んでいる。

〔H28改善点〕専門用語が多く、頭に残りにくかった。

⇒〔H29対応〕講義では分かり易い言葉を心がけた。また、講義後には必ず質疑応答の時間を設けた。

③《事業番号10「市民後見人の育成・支援」》

〔H28改善点〕市民後見人として受任することを希望するが、やはり迷いはある。

⇒〔H29対応〕研修において、監督人である社協からのサポートについて、より詳しく説明を行った。また、困難性が低いケースを優先して市民後見人依頼するようにしている。

④《事業番号14「生活困窮者自立支援事業」》

〔H28改善点〕この制度は知らない人は多いと思う。自分の場合はたまたまテレビで知ったが、制度を知らずにいる境遇の人はいるかもしれない。

⇒〔H29対応〕ハローワークや、区の関係機関などにチラシを配布し事業の周知を図った。

〔H28改善点〕制度を利用する際に、自分が窮状にあることを大家等の第三者に知られてしまう。この点については国に何らかの制度上の改善をして欲しい。

⇒〔H29対応〕国や都に対して、制度の改善の要望を提出した。

⑤《事業番号15「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催」》

〔H28改善点〕企画・運営については、仙台市の発表時間が大幅に伸びてしまったことに対する「時間がずれこんで驚いた」「講演時間は守るべき」という意見、毎回課題となっている「若い世代の参加が少ない」「関係者だけになっている」という意見もいただいた。

⇒〔H29対応〕今年度はディスカッションを中心にした内容とし、盛りだくさんというより、分科会でじっくり話し合う内容としたことで、予定通りの時間で終了した。若い世代の参加はあいかわらず少ないが、今後も課題として検討していく。

⑥《事業番号23「ふれあいサロン実施地区の拡大」》

〔H28改善点〕高齢者だけでなく、子どももこられる雰囲気づくりはどうやればよいのか。

⇒〔H29対応〕夏休みや冬休み中のサロン開催時に町会の子ども会や合同でサロンをするなど。

【まとめ】

昨年から引き続き利用者の声を聞き、良かった点と改善点が挙げられ、事業を通して利用者の満足度や達成感、スキルアップが図られていることが分かった。改善点については、利用者がより事業を理解するための要望がいくつか挙げられた。

また、今回は平成28年度に利用者の声で改善点として挙げられた内容についても、平成29年度にどのような対応を取ったのかを追跡調査した。その結果、全事業で改善点に対する対策を考え行動に移していることが分かった。

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	作業所等経営ネットワーク事業の充実	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	障害者福祉課	事業番号	1
事業概要	<p>自主生産品の共同販売(スカイワゴン)等を実施している、区内にある複数の作業所で組織された「墨田区福祉作業所等経営ネットワーク『Kai』」の共同受注・共同販売等のしくみを活用し、福祉施設における仕事の受注・販売の拡大による工賃向上を目指します。</p>		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】(H28) 作業所の受注額: 13,860,000円 スカイワゴン売上: 6,000,000円 【質的な目標】 スカイワゴンにより、障害者の自主生産品の認知度を高め、障害者への理解を促します。「すみのわ」においては、地域の製造・販売業者・飲食店との新たな繋がりを構築し、販路を拡大して工賃向上を図ると共に障害者と地域の相互理解を深めます。</p>		
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な目標】 スカイワゴンの庁舎での販売を週二回(火曜、木曜)で合計94回実施します。 ネットワーク企画展を1回実施します。 イベントでの販売を3回実施します。 作業所の受注額: 13,860,000円 スカイワゴン販売額: 7,500,000円 【質的な目標】 自主生産品の共同受注・共同販売等のしくみを活用し、受注・販売を拡大します。 自主生産品の開発・改良・販路開拓を、区内のコンサルタントを活用して進めます。 「すみだまち処」と「ネットワーク企画展」の売上向上をコンサルタント・各施設と協働して進めます。</p>		
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】 スカイワゴンの庁舎での販売は、71回実施し、ネットワーク企画展は来年2月16日～21日に実施に向け準備を進めています。 通常のスカイワゴン以外の販売は、「オリパラフラッグシップツアー」「SBSホールディング」、の2回行い、「スマイル♥フェスティバル」での販売を予定しています。さらに「すみのわ」商品の販売をトリフォニーホールで、コンサートの開催時に行ってきました。 作業所の工賃総支給額: 7,733,170 (ふれあいセンター)、7,875,216(墨田福祉作業所) 作業所の平均工賃: 月額 19,333 (ふれあいセンター)、月額 17,858 (墨田福祉作業所) スカイワゴン総販売額: 4,923,270円、月平均 615,409円、一日平均 69,342円、一日来客数 124人</p> <p>【質的な成果】 区内のクリエイターとの協働による新商品の開発のみならず、今年度も都庁直営店「KURUMIRU」、すみだ北斎美術館等で販売を行うとともに、「MUJI」(「無印良品」)有楽町店等で、一般のお客様が参加し、利用者と共に作業所の自主生産品を作るというワークショップを定期的に開催してきました。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・「KURUMIRU」で自分が製作した商品が販売されていて嬉しかった。 ・ワークショップで参加者にアクセサリーの製作を指導できて楽しかった。 ・区内企業で昼休みに販売会を行っていただき、短時間に沢山売れて良かった。 ・庁舎でパンやハンバーガーが手軽に買えて便利だ。 		
改善点に対する対応	/		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	災害ボランティアの活動体制の整備	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会ボランティアセンター	事業番号	7
事業概要	大規模災害時の災害ボランティアの活動拠点となる「災害ボランティアセンター」の準備を進め、活動体制を適時見直し、訓練を行うなどして災害に備えます。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 設置訓練1回／災害ボランティア講座2回 災害ボランティアコーディネーター研修の受講</p> <p>【質的な目標】 適時、災害ボランティアセンター運営マニュアルを見直します。 他自治体の社会福祉協議会、NPO等と連携することにより、日頃からの情報共有と相互協力体制を築きます。</p>		
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な目標】 設置訓練1回／災害ボランティア講座2回 災害ボランティアコーディネーター研修の受講</p> <p>【質的な目標】 毎年設置訓練を行い、適宜災害ボランティアセンターの運営マニュアルの見直しをします。 また、災害時の協力体制を強化するため、他の自治体の社会福祉協議会と連携をすすめます。</p> <p>【参考】 28年度実績 災害ボランティア研修の実施:1回 災害ボランティア講座の実施:2回</p>		
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】 災害ボランティア講座1回</p> <p>【質的な成果】 子ども(親子)を対象に、首都直下地震の発生から避難までをタブレットを使いクイズに答えながら体験し、実際の地震に備え3日間(72時間)を生き抜く方法を学んだ。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の防災グッズの見直しをしないといけないと思いました。 ・災害について漠然とした不安から実感を持つことができました。 ・今日習ったことを友達にも教えてあげようと思いました。 ・地震は怖いので、おきないでほしい。 		
改善点に対する対応			

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	成年後見制度の利用支援	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	厚生課	事業番号	9
事業概要	成年後見制度に関して、身寄りがいない場合等の区長による申立て、申立て費用や後見人への報酬費用の助成、後見人として支えてくれる区民(市民後見人)の育成など、制度を必要とする人が利用しやすいしくみをつくります。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 市民後見人養成研修受講者:20名(毎年度)</p> <p>【質的な目標】 区長申立にあたり、高齢者福祉課との連携を強め、迅速かつ適正な申立てにより権利侵害を防ぎます。また、障害者福祉課及び各保健センターと連携し、知的障害者、精神障害者の利用が増えるようにします。 市民後見人養成研修に区民が参加しやすいよう、権利擁護センターとともに工夫します。</p>		
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な目標】 市民後見人養成研修受講者:20名</p> <p>【質的な目標】 認知症の高齢者を中心に、成年後見制度の利用が進んでいます。報酬助成により、収入や資産が少ない方でも利用しやすくします。 市民後見人の養成を区独自に推進し、地域での社会貢献に意欲のある方の学びの場、活動の場とします。</p> <p>【参考】 平成29年度見込み 成年後見区長申立:75件 報酬助成:44件</p>		
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】 市民後見人養成研修受講継続者数:12名(受講者12名中)</p> <p>【質的な成果】 受講生全員が1人も欠けることなく研修を継続している。 意見交換会等の出席により、受講生同士が助け合い研鑽し合う関係が出来ている。 受講生達の自主的な会合が始まっている。 実践研修が始まり、受講生は実務経験を積む段階に入っている。</p>		
利用者の声	<p>【利用者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践者の活動報告は非常に勉強になった。 ・墨田区の現状をよく知ることができた。 ・高齢者の特性が良く分かった。 ・具体的事例の話が多くてよく理解が出来た。 ・演習講座を学ぶことにより、具体的イメージがつかめた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任の重さを痛感し、消極的になった。 ・内容が専門的で難しかった。 ・ワーク形式の講座やグループディスカッションはもっと時間を増やした方が良い。 		
改善点に対する対応	<p>【平成28年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点として挙げられた内容に対する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、研修生が一同に会する機会を設けていただきたい。 ⇒職員が主導するのではなく、受講生主導による自主会合が始まった。 ・実践研修がやや不安。 ⇒研修講義内で実践研修の説明を強化した。結果、不安を抱きつつも、受講生全員が実践研修に取り組んでいる。 ・専門用語が多く、頭に残りにくかった。 ⇒講義では分かり易い言葉を心がけた。また、講義後には必ず質疑応答の時間を設けた。 		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	市民後見人の育成・支援	第3次墨田区地域福祉計画【後期】
主管課名等	社会福祉協議会権利擁護センター	事業番号 10
事業概要	<p>成年後見制度が必要な方を地域で支えるしくみとして、市民後見人の育成と支援を行います。市民後見人養成研修の内容の充実を図るほか、研修修了者にフォローアップを行い、支援力を強化します。研修修了者の受任支援を行い、後見人等を受任した市民後見人には、社会福祉協議会が監督人として支援します。</p>	
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 養成研修修了者:15名(毎年度) 市民後見人受任件数:10件(毎年度)</p> <p>【質的な目標】 高齢者福祉課や高齢者支援総合センター等との連携を強化することにより、市民後見人の利用を促進するしくみづくりを進めます。 研修修了者を活用した法人後見の開始について検討します。 研修修了者が活躍できる多様な場づくりを進めます。</p>	
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な目標】 養成研修修了者:15名 市民後見人受任件数:10件</p> <p>【質的な目標】 研修修了者が活躍する場として法人後見の開始について準備を進めます。また、研修修了者が活躍できる多様な場づくりの準備を開始します。</p> <p>【参考】 28年度実績 養成研修修了者累計人数:56名 市民後見人受任累計件数:36件</p>	
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】 養成研修修了者:17名 市民後見人受任件数:3件</p> <p>【質的な成果】 研修修了者が活躍する場として、今後数年以内の法人後見事業開始に向けて、具体的検討を始めました。 研修修了者が活躍できる多様な場づくりについて、具体的手法の検討を始めました。</p>	
利用者の声	<p>【利用者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践研修において、本人とのコミュニケーションの時間を増やしたいが、利用料との兼ね合いで悩むことがある。 ・市民後見人の経験をまとめたマニュアルや事例集を作ってほしい。 ・研修を修了したが、市民後見人の重責を感じ、受任を躊躇している。 	
改善点に対する対応	<p>【平成28年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点として挙げられた内容に対する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民後見人として受任することを希望するが、やはり迷いはある。 ⇒研修において、監督人である社協からのサポートについて、より詳しく説明を行った。 ⇒市民後見人候補者の不安を良く聞き、不安を取り除くよう繰り返し対応を行うこととした。 ⇒困難性が低いケースを優先して依頼するようにしている。 	

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	生活保護受給者自立支援プログラム	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	生活福祉課	事業番号	13
事業概要	<p>生活保護受給世帯に対し、就職活動の支援、社会参加の支援、日常生活の支援、進学等の支援を行い、世帯の状況に沿った自立(就労自立、日常生活自立、社会生活自立)を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活保護受給者等就労支援事業」ハローワーク活用プログラム ・就労支援相談員活用プログラム ・墨田区母子自立支援プログラム ・被保護者社会参加促進事業(被保護者就労意欲喚起等プログラム) ・被保護者居宅生活移行支援事業(被保護者居宅生活移行支援プログラム) ・元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム ・高校進学等支援プログラム ・債務整理支援プログラム 		
事業目標 (平成28~32年度)	<p>【数値的な目標】 プログラムの質を高め、自立世帯を増やします。</p> <p>【質的な目標】 世帯の状況に沿った支援を行い、自立を促します。</p>		
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な目標】</p> <p>ハローワーク活用プログラム 参加者:220人 達成者:143人 被保護者就労意欲喚起等プログラム 参加者:150人 元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム 参加者:140人 達成者:100人</p> <p>【質的な目標】 被保護者社会参加促進事業(被保護者就労意欲喚起等プログラム)では、被保護者がボランティアを行うなど、社会的自立の第一歩を踏み出すことのできる取り組みを続けていきます。</p> <p>【参考】 28年度実績 ハローワーク活用プログラム 参加者:220人 達成者:137人 被保護者就労意欲喚起等プログラム 参加者:151人 元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム 参加者:146人 達成者:102人</p>		
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】</p> <p>ハローワーク活用プログラム 参加者:156人 達成者:92人 被保護者就労意欲喚起等プログラム 参加者:103人 元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム 参加者:104人 達成者:97人</p> <p>【質的な成果】 被保護者社会参加促進事業(被保護者就労意欲喚起等プログラム)では、被保護者の世帯状況に沿った支援を実施しています。就労準備として、若年層のパソコンセミナーの充実、ボランティア活動の参加意識が向上しています。また、稼働年齢層に対する就労支援、定着支援の充実を図るなど、社会自立への一助となるよう継続的に事業に取り組んでいます。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・行く場所があり、他の人とコミュニケーションを取ることができて、日々充実している。 ・ボランティアに参加することで社会参加している実感があり、人の役に立てることで、やりがいを感じている。 		
改善点に対する対応			

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
 平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	生活困窮者自立支援事業	第3次墨田区地域福祉計画【後期】
主管課名等	生活福祉課	事業番号 14
事業概要	生活困窮者自立支援法に基づき、生活や仕事の不安、住居の不安などを抱える生活困窮者(生活保護受給者を除く)の相談窓口を平成27年度から開設しました。相談支援員が相談者に寄り添い、他の機関と連携しながら、自立に向けた支援を行います。	
事業目標 (平成28～32年度)	【質的な目標】 相談者の意志を尊重し、生活困窮に関する様々な課題を紐解きながら、各種制度及び事業の活用と、これに関係する機関と連携を図り、相談者の自立を支援します。	
事業計画 (平成29年度)	【質的な目標】 保育園、児童館、高齢者支援総合センターなど区内施設への制度周知活動を行い、対象者把握に努めます。また、子どもの学習支援事業については、定員40名から50名に増やし、対象を高校1年夏休みまで拡充し支援します。 引き続き、相談支援員が相談者に寄り添い、他の機関と連携しながら、自立に向けた支援を行います。	
事業実績 (平成29年11月末時点)	【数値的な成果】 自立相談支援事業相談件数:170件 住居確保給付金実績:37件(延べ人数等) 新規12名 継続2名 学習支援事業の実績:区内2か所を拠点として実施。定員は各施設25名 就労準備支援事業の実績:8件 【質的な成果】 ・自立相談支援事業では相談者一人ひとりの話に耳を傾け、どのような支援が必要なのかを把握することで困窮者の自立と尊厳を確保しながら支援にあたることができました。 ・住居確保給付金では、利用者の就職活動をハローワーク等の機関等と連携して支援することができました。 ・学習支援事業は、今年度から区内2か所で各50回の事業を行い、より多くの子どもを支援することができました。また、学習をするだけの場ではなく、利用する中学生や高校生の居場所としての機能も果たした。 ・就労準備支援事業は、生活困窮者の就労意欲の喚起のため、その前提としての動機づけ、一般就労に向けた基礎能力の形成などに役立つ支援を行い、支援者の自立につながった。	
利用者の声	【良かった点】 ・就職について色々なアドバイスをいただいたので、就職活動をする際の視野が広がった。 ・パソコンの操作を丁寧に指導してもらい、就職活動に役立てることができた。 ・就職活動の面接の際に同行してくれて非常に心強かった。	
改善点に対する対応	【平成28年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点として挙げられた内容に対する対応】 ・この制度を知らない人は多いと思う。自分の場合はたまたまテレビで知ったが、制度を知らずにいる境遇の人はいるかもしれない。 ⇒ハローワークや、区の関係機関などにチラシを配布し事業の周知を図った。 ・制度を利用する際に、自分が窮状にあることを大家等の第三者に知られてしまう。この点については国に何らかの制度上の改善をして欲しい。 ⇒国や都に対して、制度の改善の要望を提出した。	

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催	第3次墨田区地域福祉計画【後期】
主管課名等	厚生課	事業番号 15
事業概要	地域福祉の推進及び「すみだ・ボランティアの日」の啓発を兼ねた地域福祉・ボランティアフォーラムを開催します。(墨田区社会福祉協議会すみだボランティアセンターと共催)	
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 毎年開催します。</p> <p>【質的な目標】 地域福祉関係者や地域福祉に関心のある人たちが情報交換をしたり、課題解決のためのヒントを得たりすることで、地域福祉の推進を図ります。 ボランティアについての認識を深めてもらい、ボランティア活動の促進を図ります。</p>	
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な目標】 7月1日(土)開催予定 テーマ「地域力でつくる 支えあいのまち ～人と人とのつながりで、困りごとを解決しよう～」 地域の中には様々なことで困っている人がいます。その困りごとを地域力、ボランティア力で解決しようということに焦点を当てたフォーラムを開催します。</p> <p>【質的な目標】 地域の課題について、地域で解決できることは地域で解決し、解決できないことは専門家につなぐという地域福祉のしくみを理解します。また、ボランティアをしたい人、してほしい人をつなぎ、ボランティア活動の促進を図ります。</p>	
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】 平成29年7月1日(土)開催 来場者数 約160名 テーマ「地域力でつくる 支えあいのまち ～人と人とのつながりで、困りごとを解決しよう～」</p> <p>①全体会 「地域の中にはこんなことで困っている人がいる」</p> <p>②分科会 1 地域の居場所を支えるボランティア ～地域の拠点でみんなを笑顔に～ 2 子どもたちの育ちを支えるボランティア ～子育て拠点で困りごと解決！～ 3 新しい私が始まるボランティア ～ボランティア入門編～ 4 住み慣れた地域での暮らしを支えるボランティア ～高齢の方も、障害のある方も安心して暮らし続けるために～</p> <p>③発表会「地域力でつくる 支えあいのまち」</p> <p>【質的な成果】 ・地域課題についてボランティアサークルの方に協力していただき朗読劇として紹介したこと、分科会のテーマや話し合うポイントを事前に講師の先生から話していただいたことが、分科会参加の導入として役に立った。 ・各分科会でディスカッションの時間を多く取り入れたことで、課題解決や、今後の活動に役立つ話し合いができた。</p>	
利用者の声	<p>【利用者の声】 ・分科会のテーマ、話し合うポイントを朗読劇形式で紹介したことが、わかりやすくてよかった。 ・分科会でのグループ討議で、日頃から発信しなかったことが言えてよかった。 ・実践者の生の声がきけてとても参考になった。自分たちの活動に生かしたい。 ・分科会がつまらなかった。 ・若い世代の参加がなかった。</p> <p>【改善点】 ・例年、若い世代の参加が少ないという反省が出ている。 若い世代が地域福祉・ボランティアに興味を持つ内容のフォーラムを開催していきたい。 ・ボランティア実践者向けのものにするか、新たな活動者の発掘にするか、その回ごとにテーマを絞ることも考えたい。</p>	
改善点に対する対応	<p>【平成28年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点として挙げられた内容に対する対応】 企画・運営については、仙台市の発表時間が大幅に伸びてしまったことに対する「時間がずれこんで驚いた」「講演時間は守るべき」という意見、毎回課題となっている「若い世代の参加が少ない」「関係者だけになっている」という意見もいただいた。 ⇒今年度はディスカッションを中心にした内容とし、盛りだくさんというより、分科会でじっくり話し合う内容としたことで、予定通りの時間で終了した。 若い世代の参加はあいかわらず少ないが、今後も課題として検討していく。</p>	

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	ふれあいサロン実施地区の拡大	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会地域福祉活動担当	事業番号	23
事業概要	地域のだれでも参加できる気軽な交流の場、情報交換の場であるふれあいサロンの拡大に取り組みます。ふれあいサロンの運営を通じて、地域住民が地域の課題に気づき、小地域福祉活動に発展していけるよう支援します。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 活動地区を年間5地区ずつ拡大します。 複数の町会・自治会を範囲とした拠点型ふれあいサロンを年間1地区開設します。</p> <p>【質的な目標】 ふれあいサロンを実施することで、地域内で互いに交流し、気にしあう関係ができ、さらに見守り活動や訪問活動など、活動の幅を広げていきます。</p>		
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な目標】 ふれあいサロン活動地区:27地区 拠点型ふれあいサロン:4地区</p> <p>【質的な実績】 ふれあいサロンを実施することで、地域内で交流しお互いを気にしあう関係が築きます。</p> <p>【参考】 28年度実績 ふれあいサロン活動地区:22地区 拠点型ふれあいサロン:4地区</p>		
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】 ・ふれあいサロン活動地区:23地区(新規2地区増、1地区は休止) ※上記23地区以外に小地域福祉活動の一環としてふれあいサロンを実施している地区は14地区 ・拠点型ふれあいサロン:4地区</p> <p>【質的な成果】 ・地域の中でお互いを見守ろうという気持ちが出てきています。</p>		
利用者の声	<p>【利用者の声】 ・月1回の集まりを楽しみにしているお年寄りがいます。 ・サロンのちらしを配ることで、安否確認にもなっているのがよい。</p>		
改善点に対する対応	<p>【平成28年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点等として挙げられた内容に対する対応】 ・高齢者だけでなく、子どももこられる雰囲気づくりはどうかやればよいのか。 ⇒夏休みや冬休み中のサロン開催時に町会の子ども会と合同でサロンをする…など</p>		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	小地域福祉活動実践地区の拡大	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会地域福祉活動担当	事業番号	24
事業概要	<p>お互いが顔見知りの地域で住民同士が自主的に行う支えあい活動(小地域福祉活動)の拡大に取り組みます。それぞれの地域の課題に応じた取り組みを、地域住民と一緒に考え、実施していきます。</p>		
事業目標 (平成28~32年度)	<p>【数値的な目標】 活動地区を年間3地区ずつ拡大します。 ふれあいサロンから小地域福祉活動に活動を拡大する地域を増やします。</p> <p>【質的な目標】 活動地区が拡大することで、住民同士の見守り・声かけが行われたり、地域の課題を自分たちで気づき、解決する関係ができていきます。</p>		
事業計画 (平成29年度)	<p>【数値的な実績】 小地域福祉活動実践地区:33地区</p> <p>【質的な実績】 見守りや声かけ、気になる人への訪問などを住民が実施することで、子どもから高齢者・障害者まで地域で支えあう関係をつくれます。</p> <p>【参考】 平成28年度 小地域福祉活動実践地区:30地区</p>		
事業実績 (平成29年11月末時点)	<p>【数値的な成果】 小地域福祉活動実践地区:30地区(1地区増、1地区は休止) ふれあいサロンから小地域福祉活動への移行:2地区</p> <p>【質的な成果】 高齢者見守り相談室などとの連携により、高齢者の見守りを実施している町会が活動の範囲を広げて小地域福祉活動を始めています。</p>		
利用者の声	<p>高齢者の見守りだけでなく、朝、通学路に立って見守りを始めたら、子どもたちや親が声をかけてくれるようになっている。</p>		
改善点に対する対応			

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
 平成29年度実績・利用者の声(平成29年11月末時点)

事業名	CSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)によるプラットフォームの形成と地域課題の解決	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会地域福祉活動担当	事業番号	28
事業概要	社会福祉協議会のCSWが、地域住民、町会・自治会、民生委員・児童委員、専門機関と協働してプラットフォームを形成し、高齢者や障害者、子育て世帯、引きこもりの人などの個別課題の解決を促します。【課題別プラットフォーム】 CSWがプラットフォームにおいて、地域の住民・団体の学びあいを進め、地域の課題解決力の向上を図ります。【福祉教育プラットフォーム】		
事業目標 (平成28～32年度)	【数値的な目標】 CSWの配置 地区別民生委員・児童委員協議会ごとに活動拠点を設け、相談活動やふれあいサロンを実施します。地域の多様な課題を関係者が共有し、役割分担して協働するしくみとしてのプラットフォームづくりを促進します。 小地域福祉活動連絡会の実施 地域福祉活動セミナーの実施 【質的な目標】 活動拠点での相談活動やふれあいサロンを通して、住民の中に地域福祉活動者を増やします。住民が地域の課題に気づき、社会福祉協議会や専門機関とともに課題解決に向けて考え、活動できるような地域を増やします。		
事業計画 (平成29年度)	【数値的な目標】 CSWによる相談対応 2カ所の地域福祉プラットフォームの継続支援 小地域福祉活動連絡会実施 地域福祉活動セミナー実施 福祉なんでも相談電話の新規設置 【質的な目標】 地域で解決できない課題についてCSWを中心に地域住民、民生委員、専門機関が協働する仕組みを作ります。 重複した課題のある世帯や住民とのかかわりのない個人の課題について、CSWが個々の課題を整理し、専門機関と連携し課題解決を図ります。 交流機能と相談機能を有した常設の地域福祉拠点を2ヶ所設置し、住民が地域の課題に気づき、解決に向けて活動できる課題解決力の向上を図ります。		
事業実績 (平成29年11月末時点)	【数値的な成果】 コミュニティソーシャルワーカーの相談件数:205件(平成29年9月末) 常設プラットフォーム 北部地区:キラキラ茶家(毎週火・木開催) 利用者実績:880名(平成29年9月末) 南部地区:ガランドール(太平一丁目:~9月、石原四丁目:11月~) 利用者実績:850名(平成29年9月末) 【質的な成果】 常設のプラットフォームについては、地域の中で気軽に交流できる場として認知されています。小学生が宿題をやっているのを近所の高齢者が見ているといったさりげない交流が行われています。また、南部のガランドールは会社員など比較的世代の若い活動者がカフェなどの活動を始めています。地域の気になる人の情報が入りやすくなり、高齢者見守り相談室や子育て支援センター、民生・児童委員と協力しながら相談に応じています。また、世帯での複数の課題や制度の狭間のケースなどの対応も増えています。 小地域福祉委員会やふれあいサロンがない地域の住民からの相談にも近隣の民生・児童委員が応じてくれています。		
利用者の声	・気軽に相談にのってもらえる場所ができた。 ・宿題を職員に教えてもらってやるのが楽しい。		
改善点に対する対応			

